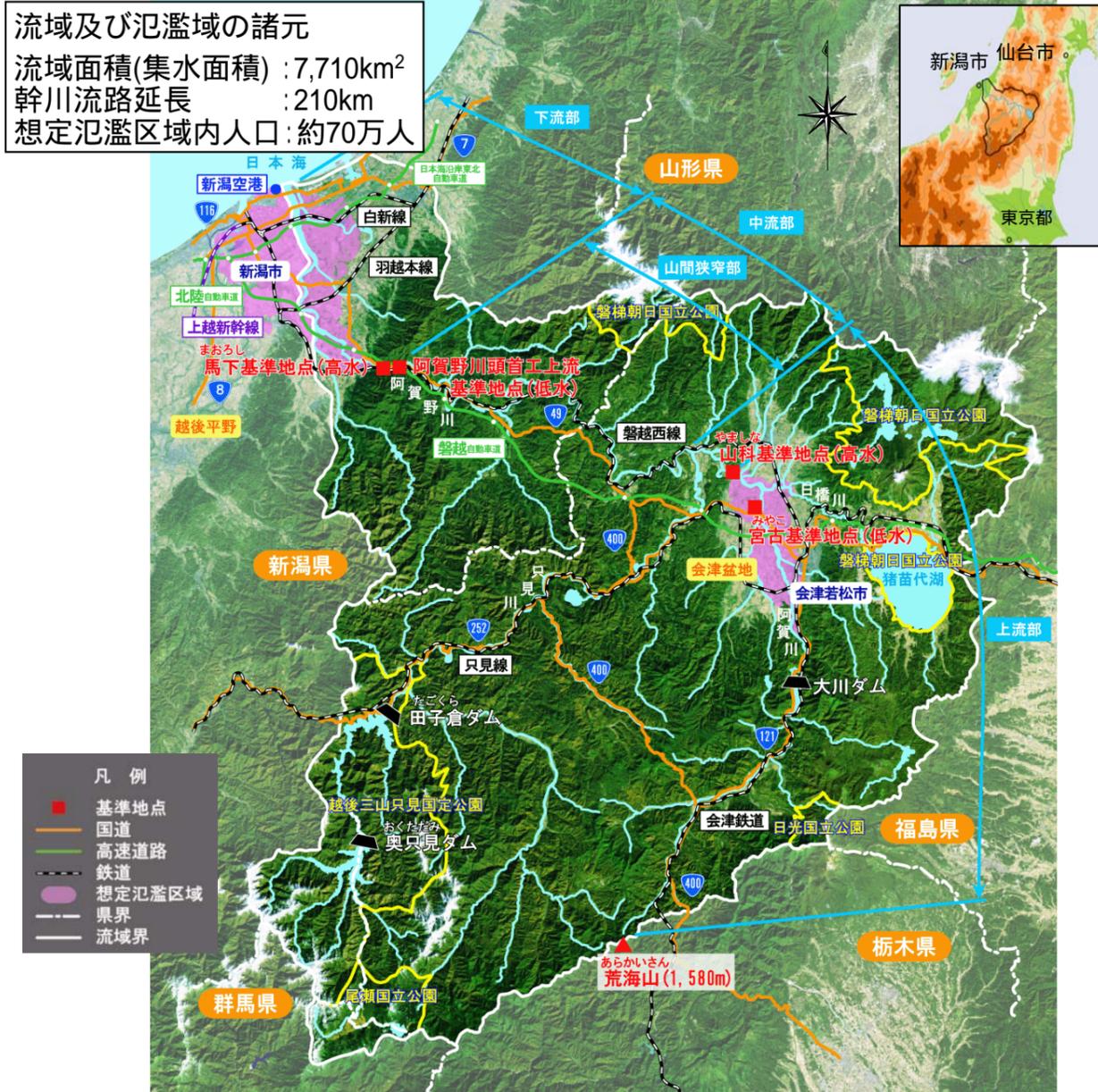


阿賀野川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

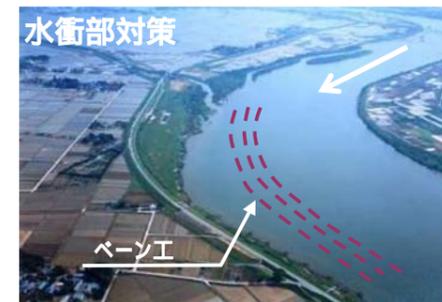
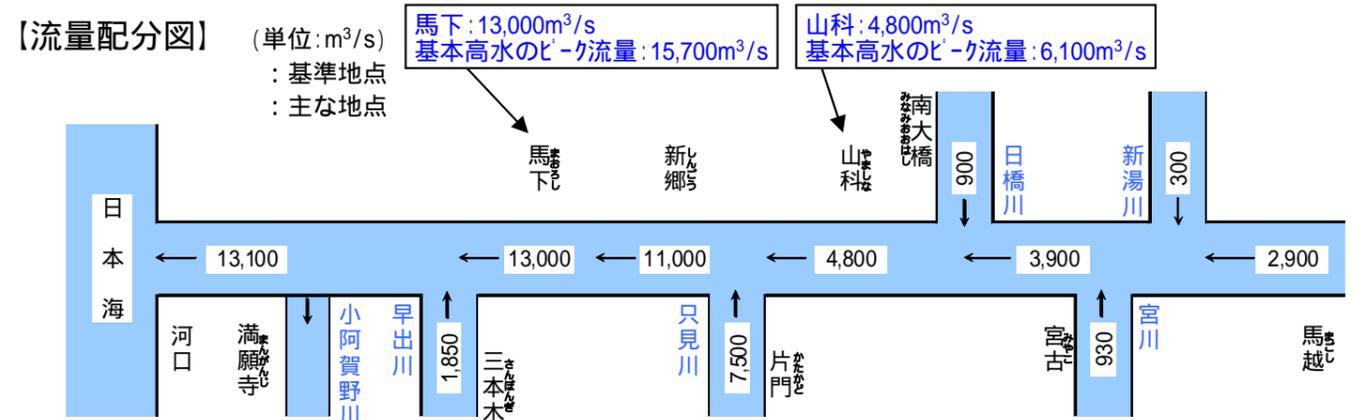
下流部の越後平野には政令指定都市の新潟市、上流部の会津盆地には地方拠点都市の会津若松市を抱え、人口・資産が集中
阿賀野川の年間流出量は、我が国有数の水量を誇り、古くから電源開発が盛ん

流域及び氾濫域の諸元
流域面積(集水面積) : 7,710km²
幹川流路延長 : 210km
想定氾濫区域内人口 : 約70万人



災害の発生の防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検証、既往洪水からの検証等の検討結果を踏まえ、基本高水のピーク流量を馬下地点で15,700m³/s、山科地点で6,100m³/sとする



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存施設の有効活用により対応
- 堤防の新設、拡築及び河道掘削、樹木伐開により河積を確保
- 上流部では、急流河川であることを踏まえ堤防の拡築及び強化を行う
- 下流部では、水衝部に水制や護岸等を整備
- 流下阻害の一因となっている固定堰、橋梁等の横断工作物の改築
- 堤防の質的強化に関する対策を実施し、堤防の安全性を確保

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図る等、今後とも関係機関と連携して必要な流量の維持に努める
宮古地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、非かんがい期は概ね7m³/s、かんがい期は概ね3m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとし、阿賀野川頭首工上流地点では、非かんがい期は概ね77m³/s、かんがい期は概ね110m³/sとする

河川環境の整備と保全

上流部(盆地部)では、湍筋の変化が激しい河川環境を踏まえ、淡水型イトヨやウケクチウグイ等が生息するワンド・細流・湧水群・湿地環境等を形成する扇状地の河道の特性の保全に努める
下流部では、ウケクチウグイ、アユ等が生息する瀬と淵が交互に連続する河床形態や、河口部におけるサギ類の集団営巣地である中州や水際のヨシ等の抽水植物群の保全に努める

